

## II 事業の概要

### 1 教育事業の実施状況

#### 【久留米信愛女学院短期大学】

### 1 短期大学の概要

#### (1) 設置する学科

幼児教育学科、フードデザイン学科、ビジネスキャリア学科

#### (2) 学科の入学定員、学生数の状況（平成28年5月1日現在）

学科名		27年度	28年度	備考
幼児教育学科	入学定員	100	100	
	収容定員	200	200	
	在籍者数	144	128	
	充足率 (%)	72.0	64.0	
フード デザイン学科	入学定員	40	40	
	収容定員	80	80	
	在籍者数	63	53	
	充足率 (%)	78.7	66.3	
ビジネス キャリア学科	入学定員	40	0	平成28年度 入学生より 募集停止
	収容定員	80	40	
	在籍者数	25	9	
	充足率 (%)	31.2	22.5	
全学	入学定員	180	140	
	収容定員	360	320	
	在籍者数	232	190	
	充足率 (%)	64.4	59.4	

#### (3) 卒業者、学位授与の状況について 平成29年3月

	幼児教育学科	フードデザイン学科	ビジネスキャリア学科	合計
平成27年度入学生	79	35	10	124
在籍者数	72 (退7)	31 (退3・徐1)	9 (退1)	112
卒業資格なし	1 (休学)	0	0	1
卒業者（短期大学士）	71	31	9	111

## 2 はじめに

2018 年を境に 18 歳人口は激減期に入ります。その前年の 2017 年は短期大学設立 50 周年を迎えます。2017 年を短期大学再生のリミットと考え、平成 23 年度に「50 周年プラン」を策定し、最終年度である平成 28 年度は、P D C A サイクルを稼働させ具体的取組みを展開致しました。

## 3 平成 28 年度の重点的取組み

### (1) 短期大学再生プラン

#### ①現状と課題

平成 27 年度は幼児教育学科 8 割・フードデザイン学科 9 割の入学者を迎え、再生の道が開けたかに見えましたが、平成 28 年度は幼児教育学科 5 割 5 分・フードデザイン学科 5 割と近年最も低い数字でした。教職員全員が危機感を共有し全力で学生募集に取組み、平成 29 年度の入学生は幼児教育学科前年度比+16・フードデザイン±0 となり、V 字回復とまでは至りませんでした。入学者増となりました。

#### ②学生募集の取組み

##### ア、オープンキャンパスの改善

オープンキャンパスの時期・回数・内容の変更と共に、より親しみやすいオープンキャンパスを目指しました。

##### イ、社会人入学生の開拓

社会人入学生を増やすため、「パコラ」での広告やウェブサイトでの広報を強化。その結果、9 名の社会人入学生を迎えることができ、最高齢は 60 代後半の方でした。

##### ウ、熊本県での募集

熊本県北部を強化する予定でしたが、熊本地震の発生により熊本での進学説明会・高校訪問を中止しました。熊本支援奨学金制度（入学金半額免除）を実施したところ 12 名の該当者がいました（うち 6 名は他の奨学金と重複。実質 6 名）。

##### エ、経済的困難を抱える家庭の支援

経済的に進学に不安を抱える家庭を支援する就学支援制度（入学金半額免除）を実施したところ、4 名の該当者がいました。

##### オ、SNS を使用した広報

ツイッター・フェイスブックを広報活動に使用し、動画を積極的に導入しました。

##### カ、学生募集に関する研修会

平成 28 年 3 月及び平成 29 年 3 月に進研アドの指導による学生募集に特化した研修を行い、危機感の共有と学生募集の改善に努めました。

#### ③2 学科制への移行

平成 29 年度からの 2 学科体制に備えて人的・物的整備を行いました。定年退職・任期満了退職・学院内異動・学内異動により、人的配置が問題なく完了しました。

### (2) 50 周年プラン及び中間自己点検評価

平成 23（2011）年度から平成 28（2017）年度までの 6 年間の短期大学の中・長期計画を策定。平成 28 年度は最終年度であり、3 月の研修会において総括し、その結果を 29 年度前期

に報告します。

また本学は自己点検・評価のサイクルを6年で回しており、平成28年度は自己点検・評価の中間評価・点検の年度でした。平成26～28年度の本学の教育・研究・社会貢献等の点検を行い、平成29年前期中に報告書を発刊します。

(3) 大学改革等による外部資金の獲得

「私立大学等改革総合支援事業」及び「私立大学等経営強化集中支援事業」にエントリーし、採択されました。

①「私立大学等改革総合支援事業」タイプ1 教育の質的転換 補助金 10,788,000円

九州の私立短大38校中16校採択

②「私立大学等改革総合支援事業」タイプ2 地域発展 補助金 8,443,000円

九州の私立短大38校中6校採択

\*九州の私立短期大学38校のうち、3タイプ採択1校(中村学園)・2タイプ採択(本学含む6校)・1タイプ採択9校。未申請・不採択22校。

③「私立大学等経営強化集中支援事業」タイプB 補助金 41,275,000円

九州の私立短大38校中13校採択

#### 4 幼児教育学科

(1) 教育活動の充実

①本学の保育者養成力の向上を図るため、教育内容の点検、開講期などカリキュラムの検討を行い、平成29年度入学生から「チャイルドプロジェクト」(卒業必修)として開講するなどのカリキュラムの改善を実施しました。

②ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの見直しを行い、改善を図りました。

③平成28年度より4つのプログラムと3つのプラスアルファのプログラムを実施しました。

④履修カルテの改善を実施すると共に、ゲストスピーカーとして保育現場で活躍する保育者を招き、より実践的な学習プログラムを実施しました。

(2) 学生支援の充実

就職部と連携して保育職面接特訓講座などを実施したほか、福岡県幼稚園連盟の筑後部会・福岡部会、佐賀県幼稚園協会と養成校との懇談会への参加や実習訪問指導などの機会を通じて情報交換を行い、信頼関係を深めました。結果として今年度も700件以上の保育職の求人が確保でき、就職率も3月末で100%(保育職等の専門職100%)を達成しました。

(3) 研究活動の活性化

リカレント教育の一環として、本学科教職員と卒業生の保育者で信愛保育研究会の活動を行い、研究会開催のための検討を行いました。また、本学科教員から本学第40号研究紀要に6編の投稿がありました。

(4) 地域参画

おもちゃライブラリーを拠点にして、地域の子育て支援に参画しました。具体的には昨年度に引き続き、「信愛つどいの広場」(週3回)、「子育て支援講座」(月1回)、「子育て相談」などを実施。また、地域の子育て支援に関する行政への協力として、久留米市社会福祉審議会や久留米子ども子育て会議等への委員協力を実施しました。その他にも、信愛オリジナル

ダンス「ココ、カラダ。」を制作し地域活性化のイベント等への参加を実施しました。

#### (5) その他

8月に教員免許更新講習（幼稚園教諭対象）を実施し、のべ約200名が受講しました。

また、平成29年度教員免許更新講習の文部科学省への申請を行いました。

高大連携は南筑、明光学園、誠修、三井中央、福岡海星女子学院との連携事業、並びに信愛高校との接続事業を実施。また他の高校への職業理解等の出前講座も積極的に実施し、結果として入学者志願者増に結び付けることができました。

### 5 フードデザイン学科

#### (1) 公開講座

平成28年度は、2講座開講しました。

##### ①「みんなの食育講座Ⅰ - 卓（テーブル）へのお誘い」

講師：八木なほ子氏（本学非常勤講師、食空間コーディネーター協会認定講師）

- ・第1回 春編 平成28年 4月23日（土）
- ・第2回 夏編 平成28年 7月30日（土）
- ・第3回 秋編 平成28年10月29日（土）
- ・第4回 冬編 平成29年 1月28日（土）

受講者数はのべ120名でした。

##### ②「みんなの食育講座Ⅱ - 健康寿命を延ばす食生活」

講師：石井妙子氏（本学教授、元済生会福岡総合病院栄養部科長）

- ・第1回 平成28年6月18日（土）
- ・第2回 平成28年7月 2日（土）

受講者数は34名であった。

#### (2) 地域企業との共同開発

平成28年度は、地域企業等4団体との連携活動に取り組みました。

1つは、平成22年度からの「JAくるめとの連携事業」の継続です。内容は、JAくるめ広報誌『With You』の「うまかもんクッキング」コーナーへ、毎月のテーマとなる久留米産農産物を使った料理レシピを学生が考案して掲載するものです。

2つ目は、平成27年2月号から取り組んだ『くるメディア』情報誌への月1回の「久留米信愛短大の元気レシピ」の掲載です。本活動は西日本新聞印刷内に事務局を置く、編集デザイン会社スプラッシュからの依頼です。これまで本学科で取り組んだ発表レシピを中心に、本学の広報活動も含め実施しています。

3つ目は、CTC-LANKA（企業）、福岡県および久留米市、本学との産官学連携事業として、「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開発」研究会（通称、「ココナッツ研究会」）の活動です。28年度は、「ココナッツ残渣」を活用した料理開発に取り組み、ぶどうの樹（株式会社グラノ 24K）冬メニュー選考会出品に臨みました。結果、『ココナッツミートソースパスタ』が採択され、ぶどうの樹のレストラン5店舗にて提供されました（12月1日～2月末日）。

なお同時に出品した『ココナッツドーナッツ』は、29年5月中旬～夏季限定にて販売される予定です。

4 つ目は、9 月より生活協同連合会グリーンコープ連合のカタログ『Green ふらす』（月 1 回発行）に、学生考案レシピを掲載しております。

### (3) 50 周年プラン（後期最終年度）

50 周年プラン後期（平成 26～28 年度）最終年度にあたり、後期評価および総括を行いました。

プランⅠ「定員確保」は、各年の在籍率（新年度時）が前期（23 年度～）100.0%、80.0%、62.5%、後期（26 年度～）68.8%、80.0%、66.3%と推移し、毎年一定数の新入学生確保が厳しい状況です。特に 29 年度は 47.5%（29 年 3 月 1 日現在）となりました。社会人入学生に関しては、毎年一定数確保（1～3 名）できております。

プランⅡ「栄養士としての資質向上」への取組みは、概ね目標を達成。しかし、卒業後の就業状況調査は実施に至らず、卒後 3 年未満の離職率は把握できておりません。中期計画の卒業生へのリカレント教育未実施も含め、卒業生への対応（栄養士教育、就業実態把握等）が課題です。

### (4) 「フードデザイン室」ほか調理・給食施設の開放

本年度は、フードデザイン室ほか調理・給食施設を下記の 3 団体（研修会）に施設開放を行いました。

- ・久留米大学講義「食と健康」における調理実習（4 回）
- ・久留米市学校給食会研修会（1 回）
- ・筑後地方保育協会保育士会給食研修会（2 回）

## 6 ビジネスキャリア学科

### (1) 教育活動の充実

学科としての最終年度を迎えるにあたり、一人ひとりの学生の興味・関心に応じたきめ細やかな教育を行い、無事全員（9 名）卒業させることができました。

#### ①資格取得

ビジネス実務士及び上級ビジネス実務士、情報処理士及び上級情報処理士、秘書士、医療管理秘書士の 6 資格は 9 名全員が取得。調剤事務管理士は 6 名が取得。医療情報事務士は 5 名が取得しました。

#### ②PBL 手法による教育

4 月にシティプラザのオープニングイベント「くるめ楽衆国まつり」に参加。

7 月に「まちなか万博」事業に採択され、11 月に同事業として「まちなかアロマ森林浴」イベントを開催しました。地域の課題解決に主体的に取り組むこれらの活動を通じて、学科の教育目標である「自己表現力」「コミュニケーション能力」「課題に主体的に取り組む姿勢」「創造的思考力」の涵養を目指しました。

### (2) 就職支援活動の充実

学生の進路決定率 100%を達成しました。

### (3) 社会への貢献

#### ①中心市街地活性化事業

8 回目となる期間限定信愛クリスマスショップ「メルシィ」を開催し、中心市街地活性化

に貢献しました。

## ②公開講座の実施

「シニアのためのパソコン講座」(全2回)を8月に開講。参加者は4名でした。

## (4) その他

最終年度であることを鑑み、従来の卒業研究セミナー論文集の内容を充実させ学科の記念誌として作成しました。

## 7 おわりに

2018年を境に18歳人口は激減期に突入します。各大学の生き残りの戦いの最後のステージである前年の2017年に、短期大学は設立50周年を迎えます。平成29年度は2学科制の新しい体制のスタートでもあり、共学化の準備の年でもあります。本学院の創立100周年を迎えるため、教職員一人ひとりのポテンシャルを信じ、「一の心、一の魂」の精神をもって、知恵と汗を絞り、難局を乗り切る所存です。

【久留米信愛女学院中学校・高等学校】

1 重点目標の達成について

重点目標：「女子の学びのスタイル」を再確認し、「寄り添う学習」から「自律的な学習」へと導く。グローバルな視点を持ちつつ、地域に根を下ろした教育活動を展開する。

「進路実現」については、国公立大学 23 名合格、私立大学 127 名合格と、昨年度の数字には及びませんが 4 年連続で国公立 20 人台の数を出すことができました(下記 2 (1) の表参照)。

2 教育活動

(1) 生徒の成長段階に合わせた進路学習会・講演会の実施や個人面談等のきめ細かな進路指導を通して、進路意識の高揚を図りました。過去 7 年間の大学等合格状況の推移は次の通りです。

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
卒業生数	102	94	92	105	89	90	79
国公立大学	15	※1 20	※2 14	※4 25	※5 25	※6 25	※8 23
私立大学	144	111	86	129	117	138	127
海外の大学	0	0	※3 1	0	3	※7 1	0
短期大学	29	23	25	14	19	6	13
うち信愛短大	18	16	18	11	11	4	8
専門学校	7	14	8	11	9	9	6
就 職	2	4	2	0	0	1	0

※1 防衛大学校一次合格 5 名を含む。 ※2 防衛大学校一次合格 2 名を含む。

※3 既卒生。ハンガリー国立大学医学部合格。

※4 防衛大学校一次合格 6 名、水産大学校合格 1 名を含む。

※5 防衛医科大学校合格 1 名、防衛大学校合格 1 名、航空保安大学校合格 1 名、防衛医科大学校一次合格 1 名、防衛大学校一次合格 4 名を含む。

※6 防衛大学校合格 1 名、防衛医科大学校一次合格 1 名、防衛大学校一次合格 1 名を含む。

※7 既卒生。ハンガリー国立大学医学部合格。

※8 防衛医科大学校一次合格 1 名、防衛大学校一次合格 7 名を含む。

合格した主な大学は次の通りです。

〔国公立大学〕 九州大学 2・熊本大学 2・佐賀大 3・広島大学・山口大学・愛媛大学・長崎大学・北九州市立大学・福岡女子大学・宮崎県立看護大学・宮崎公立大学

〔私立大学〕 中央大学・東京理科大学・北里大学 4・フェリス女学院大学 2・神奈川大学・立命館大学・関西学院大学・関西大学 5・関西外国語大学 3・近畿大学 14・産業医科大学・西南学院大学 8・福岡大学 16 他

(2) 理数系に強い女子の育成について、進学実績から見てみると理系学部学科への進学は 41% と高い数字を示しています。医学部医学科へは 5 年連続合格者を出しました。生徒の特性を

踏まえた学習指導の充実と視野を広げるための各種研修会への参加督励等を行った結果と見ています。日常の取り組みとして中心に据えているのは「寄り添う指導」です。きめ細かな個別指導及び全体指導を行い、3年間または6年間をかけての進路意識高揚と学力向上を図っています。これから必要とされる社会人基礎力とも言うべき「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の育成は本校が得意とする領域です。生徒に寄り添い、大学受験を睨みつつさらなる進路指導の充実を考えていきたいと思えます。

(3) 複雑にグローバル化が進む中、国際的視野育成のプログラムを充実させ、国際交流の深化と語学研修の充実に努めました。

プログラム	概要
カナダ修学旅行	高校2年生(74名) 10月実施 バンクーバー周辺 6日間 4泊ホームステイ セント・トマス・アキナス校との交流
韓国研修旅行	高校1年一貫生希望者(27名参加) 10月実施 ソウル・天安 姉妹校福者女子校との交流 3日間(うち1泊はホームステイ)
ニュージーランド研修	中学3年希望者(20名参加) 8月実施 オークランド 10日間 姉妹校セント・ドミニクス・カレッジでの語学研修
福者女子校との交流会	熊本大地震の影響により、2016年度の本校への来校は中止 信愛ビデオレター送付 例年 高校2年 7月実施 九州への3日間の修学旅行の一環として生徒、教師、ガイド来校 本校生徒宅へのホームステイ
インターナショナル・キャンプ	中学1・2年(20名参加) 3月末実施 3日間 海の中道青少年海の家イマージョン型(英語漬け)研修
海外留学(1年間) 帰国	高校2年:1名(カナダより)
海外留学(1年間) 出発	高校1年:1名(アメリカへ) 高校2年:2名(アメリカへ)
海外留學生の受け入れ(1年間)	高校1年:1名(フランスより)
海外短期留學生の受け入れ	中学1年:1名(アメリカより)、中学2年:1名(アメリカより)
聖マリア病院留學生(医療従事者)との交流(中学)	中学2年50名 10月実施 国際交流事業研修員9名(男性7名・女性2名)の出身国について事前に調べ、当日は質問をし説明を受けるなどして理解を深め、日本文化についても紹介をした。
聖マリア病院留學生(医療従事者)との交流(高校)	高校1・3年の希望者が、聖マリア病院への留學生による本国医療事情の説明会(ジョブ・レポート)に参加 説明会后、生徒有志で座談会

### 3 広報活動

中学校では、2017年度(平成29年度)入試で志願者数98名、前年度比12.5%減となり、59名入学で前年度比9.2%減となりました。歩留まり率は前年度58.0%に対し、今年度は60.2%

でした。中学校入試においては次年度で3回目となる信愛オープン学力診断テストの効果の検証が必要です。また、学習塾との円滑な関係の構築、特に小学校への積極的なアプローチなど、広報戦略の展開を見直す必要があります。

高校では、2016年度（平成28年度）から、従来の学際特進コースとS特進コースをそれぞれ学際コース、選抜コースとしました。学際コースはさらに4つのフィールド（幼児教育・フードデザイン・看護医療・総合）に分け、学ぶ内容が明確になるように改編しました。2017年度（平成29年度）入試では志願者数173名、前年度比14.4%減となり、90名入学で前年度比5.9%増となりました。高校の志願者数の落ち込みはありましたが、前年度歩留まり率42.1%に対し、今年度は52.0%となり前年度より9.9%上がった為、例年並みの入学者数確保をすることができました。これは推薦・専願入試での入学者の増加（前年度17名、今年度31名）によるものです。なお、一貫生47名の内の他校受験は8名で、その中で本校進学は1名でした。一貫生の本校進学への勧め方の工夫や、コースとフィールドの内容や広報計画について改善の必要があります。

#### 4 その他

- (1) 中学1年から高校3年まで学年単位、または学年合同で発達段階に応じた行事、テーマに合わせて、「神父様の講話」や神父様のご指導のもと行った「中3学年ミサ」、「錬成会」、「みことばの祭儀」、職員対象のミサなどを通して、カトリック学校としての教育理念の確認、「信愛教育」の徹底を図ってきました。
- (2) 同窓会との連携で、5月に「ロザリオの集い」（人生の節目となる40歳・60歳の集い）、12月に「MESSAGE 28 ～卒業生と在校生の交流会～」(卒業後10年の先輩による講話)、1月に「信愛成人式」などを催し、卒業生と教職員・生徒との絆を大切にしつつ、「女性の一生をサポートする」学院の姿勢の明確化・定着に努めました。「野のゆり奨学金」が「野のゆり入学祝い金」となって3年目、同窓生の子女の入学をサポートしています。
- (3) 福岡県副知事の主催する「福岡女性いきいき塾」出身のメンバーの方々を中心に、社会に出てリーダーシップを取りながら活発に働く女性の皆さん10名ほどを招聘して、高校1年生が少人数のグループに分かれ交流する「働く女子と学ぶ女子の座談会」を3月に催しました。人前で自分を押し出す場を設け、自己表現力やコミュニケーション能力を高める機会としました。
- (4) 後援会との連携で、「信愛近隣北地区」・「信愛近隣南地区」・「久留米市街東地区」・「久留米市街西地区」・「久留米南西地区」・「久留米北東・三井地区」・「田主丸・吉井・うきは地区」・「甘木・朝倉地区」・「八女・筑後地区」・「小郡・筑紫野・太宰府・福岡地区」・「鳥栖・三養基・佐賀地区」の11地区で地区保護者会・懇親会が開催され、後援会のネットワークが一層強まりました。
- (5) 後援会との連携で「信愛父親の会（Shin-ai Dads' Club）」が発足し4年目を迎えました。活動は5月に体育祭のテント立て、9月に文化祭警備、12月上旬にイルミネーション設置作業と点灯式、下旬に受験生応援のためのぜんざい会「粘ろう会」を催し、お母様方の参加もあり、更に充実したものとなりました。

## 【久留米信愛女学院幼稚園】

### 1 平成 28 年度の重点目標達成について

子ども子育て支援新制度への移行に伴い、こども園・保育園の利用者が増加したと見られ、幼稚園では厳しい現状の中での園児募集でした。しかしながら、生涯価値・固有価値・非言語価値の3つの価値を磨き込み、園児の家族や地域社会に信愛教育の質の高さが評価されるよう努力しました。その結果、外部からの入園者 33 名及び未就園児クラスからの入園者 55 名の計 88 名、昨年度より 12 名増の 239 名でのスタートとなりました。

- (1) 生涯価値・・・1 歳から 6 歳に知らせた生涯価値 (幼年前期：0 歳～3 歳・幼年後期：3 歳～6 歳)
- 自分の生活世界を更に包む大きな (神の存在を保育者自身が実感しながら) 世界があることを知らせました。
  - 幼年後期は、年間の宗教カリキュラムに沿い、子ども達とイエス様の生涯について話し合い感じたことを分かち合いました。

(宗教カリキュラム)

4 月	優しい雰囲気の中に神様の存在	5 月	みんなのお母さんマリア様
6 月	神様は私達みんなのお父さん	7 月	私達を愛しておられるイエス様
9 月	私達はみな兄弟	10 月	ロザリオの月
11 月	成長の喜び・待降節	12 月	イエス様のお誕生日
1 月	イエス様の幼年期	2 月	ご受難と復活
3 月	私達は光の子		

- (2) 固有価値・・・1 歳から 6 歳の固有価値

—幼年前期の固有価値

- ・信愛の教育理念であるモンテッソーリ教育の質を高めました。
- ・つぼみ組は手作り教材 27 種類、既製の教具 33 種類を自由に使用し活発に自己活動に励みました。

—幼年後期の固有価値

- ・質の向上に向け、基本である日常生活の教具の見直し及び練習を実施した結果、8 クラスの子ども達が「お仕事」に集中し、固有価値を高めることが出来ました。

- (3) 非言語価値・・・園全体を包む信愛の雰囲気を大切に

—職員による園児や保護者とのかかわり方、また園の雰囲気や園内外の美化は勿論のこと、特に保育室の環境整備により子ども達自身も秩序を保つことが出来ていると好評を得ました。

## 2 その他の取り組み

### (1) 未就園児

- ・未就園児クラス・縦割りクラス随時保育体験・見学実施  
クラスに入り、我が子が園児と共にモンテッソーリの「お仕事」ができることが好評でした。
- ・園児募集特別取り組み（保護者対象）  
8月6日（土）・10月1日（土）「モンテッソーリ教具を使ってのお仕事」  
今回、はじめてお子様ではなく保護者に体験して頂く企画としました。  
教具の取り扱いが解かりやすく、園児がしているモンテッソーリ活動を楽しく体験できたと好評でした。
- ・信愛広場（第1・第3土曜日）  
年間10回実施、目標参加者増達成。（昨年度参加者のべ91名）  
延べ人数12名増の103名でした。  
楽しい時間の提供を実践。毎月4～5名の父親参加がありました。  
（活動内容）
  - ・親子体操（夏はプール遊び）・親子クッキング（おにぎりやお芋団子作り）
  - ・誕生日会（毎月）・子供の部屋紹介（図書館）

### (2) 土曜学校（第1・第3土曜日）小学1年生～6年生対象

年間10回実施。目標50名達成。参加者は53名でした。

（活動内容）

- ・宗教・モンテッソーリ活動・施設見学・そうめん流し・クリスマス会

### (3) 預かり保育マリア組

開園日 月平均40名（土曜日含む）・長期休暇 月平均50名（土曜日含む）

- ・早朝マリア7時～8時20分・保育後～18時・延長保育18時～19時実施。

（盆・正月以外の平日、土曜日実施）

- ・モンテッソーリの精神を生かし保育を実践。
- ・日常生活の徹底。
- ・共働きの保護者が安心して働くことができる保育を実践。
- ・室内活動のみでなく、散歩や外遊びの充実にも努めました。

## 2 管理運営の実施状況

### (1) 理事会・評議員会の開催状況

#### ① 理事会

- 第1回 平成28年4月19日
- 第2回 平成28年5月24日
- 第3回 平成28年6月21日
- 第4回 平成28年9月20日
- 第5回 平成28年10月18日
- 第6回 平成28年11月15日
- 第7回 平成28年12月20日
- 第8回 平成29年1月17日
- 第9回 平成29年2月21日
- 第10回 平成29年3月21日

#### ② 評議員会

- 第1回 平成28年5月24日
- 第2回 平成28年10月18日
- 第3回 平成29年3月21日

(2) 施設設備の整備状況

平成28年度の主な施設設備については下記のとおり整備しました。

部 門	明 細	金 額	備 考
共 通	学院サーバー移設及び基幹LAN整備工事	6,085,800 円	
	図書館照明LED化工事	1,140,641 円	
	図書館視聴覚室床カーペット貼替工事	777,600 円	
	消火設備更新	575,100 円	
短期大学	1201・1501教室液晶プロジェクター更新	1,029,044 円	卒業記念品
	バイオレットホールエアコン更新	745,200 円	
	幼児教育研究室パソコン・プリンター更新	406,134 円	
	赤外線オイルヒーター購入	210,600 円	卒業記念品
	学生ロビー床カーペット貼替工事	201,960 円	
中学校・ 高等学校	中高本館玄関前外灯設置	520,560 円	卒業記念品
	ピアノ修理	506,520 円	
	教室ガラス交換工事	483,840 円	
	化学教室実験台水栓取替工事	293,760 円	
	グローリアホールロビー床カーペット貼替工事	253,800 円	
	エアコン集中制御装置更新工事	214,920 円	
幼稚園	ログハウスベランダ・手摺り等修理工事	532,440 円	
	園旗付属品一式購入	417,960 円	卒園記念品
	AED更新	319,680 円	
	屋外遊具修理工事	209,520 円	
	園児用机更新	150,660 円	卒園記念品